



編集・発行 福岡県 企画・地域振興部 政策支援課
TEL : 092 (643) 3178
FAX : 092 (643) 3164

【目次】

- みやこ観光まちづくり協会(みやこ町)1, 2
- 赤村特産物センター運営協議会(赤村)3, 4
- 県庁お知らせ掲示板4

□一般社団法人みやこ観光まちづくり協会(みやこ町)

観光振興を通じた人と人を繋げるまちづくり

～一般社団法人みやこ観光まちづくり協会(みやこ町)～

みやこ町は、福岡県の北東部に位置し、美しい水と緑、そして数多くの文化遺産に恵まれた町です。英彦山山系を源流とする今川と祓川、平尾台を源流とする長峽川が流れ、肥沃な土地を活かして、人々の生活が営まれてきました。

また、「みやこ町」の名前の由来は、日本書紀の「景行天皇が九州に来られた際、仮の御殿を建てて滞在された。天皇がしばらく住まわれた場所なので、この地は『みやこ』と呼ばれるようになった」との記述とされており、雄大な自然と歴史・文化が多く残るまちとなっています。

今回はこのような地域の魅力を活かした観光振興を通じて、みやこ町の活性化を行っている一般社団法人みやこ観光まちづくり協会さんにお話を伺いました。

観光振興を通じたまちづくり

一般社団法人みやこ観光まちづくり協会は、平成26年からみやこ町の任意団体として設立し、活動をおこなってきました。

協会の活動スローガンとして、人の心と心をつなぐ架け橋となり、「物の豊かさ」でなく「心の豊かさ」を求める「人」に視点をおいた観光振興の活動に取り組んでいます。

令和2年度に一般社団法人として法人化を行い、現在は理事11名、事務局2名、会員数100名ほどの体制で活動をしています。



▲一般社団法人みやこ観光まちづくり協会 水上さん。みやこ町に地域おこし協力隊として移住。2年間協力隊で活動後、事務局長に就任。

町の魅力を知ってもらう様々な取組

一般社団法人みやこ観光まちづくり協会は、キャンプ場にて、特産品をつかったマルシェなどのイベントや体験プログラム、メディアへのPR出演を通じて、みやこ町の観光振興や、まちづくりを目的に活動をおこなっています。

こうした取組は、歴史ある「みやこ町」を町内外の多くの人にもっと知ってもらいたいという思いで開催されており、イベント開催時には多くのお客さんが、みやこ町を訪れているそうです。



▲サイクリングツアーやキャンプ場を使ったマルシェなど多彩なイベントを実施



▲みやこ町特産の一つであるジビエ

このようなイベント開催などの取組を行うことで、みやこ町を見る機会が増えたねという言葉が聞けることがあり、少しでもみやこ町を知ってもらえる力になれたのかなと実感が湧くとのことでした。

また、イベントを開催することで、地元の人とのつながりが強固になるので、よりよい関係を築くことができ、さらにいいイベントにつながっていくことです。

地域愛の醸成

また、最近では町内の小学校の生徒に対して、もっと地元の魅力を知ってもらうために、体験授業の支援を実施されているそうです。

この取組で最初に感じるのは、子どもたちは、町の文化遺産などの情報について知らないことが多いことだそうです。

そこで、少しでもみやこ町の魅力を知ってもらうために、小学生を連れて、地元の事業者や文化施設を訪れる取組を行っているとのことでした。

水上事務局長さんの思いとして、「若い人が進学や就職で地元を離れてしまうのはある意味仕方がないこと。しかし、いまいる子供たちには、みやこ町でのいい思い出やイメージを育んでもらいたい。大人になっても地元への誇りと愛着を少しでも持ってもらえればという気持ちでみやこ町の魅力を教えています。」とのことでした。



▲地元の茶工場を視察する小学生

活動を通じて感じたこと

今後の課題や目標についてお聞きしたところ、「常に組織としての存在意義を考えながら、事業を行っています。各事業の一番の核はやはり「人」であり、事業に賛同してくれる「人」（仲間）を増やしていくことが大切だと思います。ただ、実際はそこが一番難しい課題でもあります。まずは、今、住んでいるこの町の人に楽しんでもらって、少しでも幸せが増えるようなイベントを企画して、人とのつながりが増えるようにしていきたい。」とおっしゃっていました。

最後に水上さんにみやこ町はどんな場所かお聞きしたところ、「みやこ町は元々縁もゆかりもないところでしたが、行政、観光協会、地元の皆さんが快く受け入れてくれたおかげで、今も楽しく生活し、仕事をさせていただいております。

与えられた場所（観光振興やまちづくり）で、しっかり恩返ししたい。」とのことでした。

地元の農産物を通じた地域の交流

～赤村特産物センター運営協議会(赤村)～

赤村は福岡県筑豊地域の東部にあり、英彦山から扇状に走った山麓に挟まれた細長い盆地で、英彦山を源流とした今川が流れています。土地は肥沃で昔から良質米が生産されており、山間部一帯は、緑と清流がつくりだした素晴らしい景観に恵まれています。

今回は、そんな大自然の恵みを受けて、生産された新鮮野菜・米・花・多数の農産加工品・手芸品まで「新鮮」「うまい」「安い」「安心」を合言葉に販売し、地元の皆さんに愛されている赤村特産物センターを運営している赤村特産物センター運営協議会さんにお話を伺いました。



▲自然豊かな英彦山に囲まれた赤村

「道の駅」の先駆けとなる活動

平成3年から赤村特産物センター運営協議会が立ち上げられて、現在は会長、副会長含め8名と赤村役場がオブザーバーとして入って、活動をされています。

赤村特産物センターでは農産物の販売所の他に、加工品を作る加工品センターや地元の食材を使った食事処も併設されており、地元の方々が従業員として働かれています。

元々、役場の入り口で、地元の方々が野菜や加工品を持ち寄って販売しようという、いわゆる地域の触れ合い朝市のような動きがきっかけで、この活動が始まったそうです。

活動を始めると、地域住民の方々に大変好評となり、地元で盛り上がりを見せていくにつれて、「みんながもっと常時売れるような形をしたほうがいい」などの意見が挙がってきたことで、当時の会長の中原さんを中心に、平成3年10月に運営協議会を立ち上げたとのことでした。

なお、設立当時、この取組は福岡県内でもかなり珍しく、県内外の自治体が視察に来たり、メディアの取材があったりと、「道の駅」の先駆けとなる活動として取り上げられていました。



▲新鮮な農産物を販売している赤村特産物センター



▲店内には地元で採れた野菜や加工品が並んでおり、多くの方がセンターを利用している。

生産者が出品した品物をセンターが委託を受けて、販売しており、午前と午後の2回、販売状況を出品者に通知しているとのこと。なお、出品者はその情報を元に追加でセンターに品物を持ち込むこともあるそうです。

また、併設されている加工場では早朝から地元の方々の従業員の方がパンなどを製造し、店内で販売したり、地域の食材を使った食事処の運営も行っています。

赤村を支える複合的役割を持った拠点

赤村特産物センターは、村にとって、色々な役割を果たしています。

例えば、高齢者の方が野菜を継続的に作ることで健康増進に繋がるやりがい対策や、地元の方の雇用対策、地域住民の買い物拠点として利用されていたりと、複合的な役割を担った拠点として地域に根付いており、まさに赤村の中心的な施設であり、地域の人たちにとって、なくてはならない存在であると感じました。

さらに、近隣の小学校の給食で使用する野菜の納品もセンターを通じて行っています。納品の際に生産者の情報を添付しており、給食の時間に生産者の情報が校内放送を通じて紹介され、生徒の近親者や知り合いの方の名前が出ると、子どもたちが盛り上がることもあるそうです。

地元以外での取組

一方で、休日になると観光客が、赤村特産物センターに訪れ、特産品等を購入しており、地域外の方が赤村を知るきっかけづくりを担っている側面も持っているそうです。

また、赤村特産物センター運営協議会さんは、赤村地域内での販売だけでなく、出品者の方と一緒に直接都市部へ赴いて、継続的な販売活動もしており、他の自治体と合同イベントを実施するなど、広く赤村をPRし、そこで購入した方が赤村に訪れるなど、関係人口の創出に大きく寄与してるとのことでした。

赤村から都市部に継続的に販売に行くことは、移動などを考慮すると、とても大変なことです。

それでも、たくさんのお客さんに赤村の特産物を買って喜んでいただき、また、生産者の方にも地域外の新たなお客さんとの関りが増えて喜んでいただいております、大変やりがいを感じている。今後ともこの取組を維持していきたいとのことでした。



▲村外で開催されたマルシェに出店し、地域外の人に赤村をPR

この活動を通じて知ってもらいたいこと

「赤村特産物センターでは、生産者の方たちが楽しく活動していることを知っていただきたい。また、この活動に参加していない方はもっともっと参加してほしい。もちろん地域外の方には、赤村特産物センターを知ってもらって、利用していただきたい」ということでした。

最後に、赤村特産物センターはどんな場所かお聞きしたところ、「地域の人にとっても、生産者にとっても“生きがいを持って、とても楽しめる場所”ということで、今後も地域の中心的な拠点として、繋がりが増え続ける場所として頑張っていきたい」とのことでした。

県庁お知らせ掲示板

こどもエコクラブにご登録ください！

こどもエコクラブは、幼児(3歳)から高校生まで誰でも参加できる環境活動のクラブです。自分たちの興味関心のある環境保全活動や環境学習を通して、子どもたちが人と環境の関わりについて幅広い理解を深め、地域の環境保全活動の環を広げることが目的としています。登録料、年会費は無料です。登録すると、活動中の事故に伴う賠償をサポートする「賠償責任保険」の対象となるほか、協賛企業から活動に役立つグッズの進呈などもあります！

詳しくは、ホームページをご覧ください。

<https://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/jec.html>

